



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第290号

2020年1月9日発行

編集・発行：情報委員会

2019～20年度 テーマ

素敵に輝いて 素敵なクラブライフを！

臨時総会・例会

日 時：令和元年 12 月 12 日(木) 12:30～14:30
場 所：八王子エルシィ
出席者：49 名 出席率 80 %
(会員総数 61 名 休会 2 名 欠席 10 名)

会食と臨時総会・定例会

齊藤例会委員長から会議等の進行について説明があり、会食に引き続き臨時総会・定例会が開催された。

臨時総会

1. 開 会 齊藤例会委員長
只今より臨時総会を開催します。(資料確認)

2. 会 長 挨拶 飯田 会 長

3. 議長選任
恒例により飯田会長が議長席につき、会員総数・出席者数を確認のうえ議事に入った。

4. 書記・議事録署名人の選任
議長より、書記に野口浩平会員、議事録署名人に宮城安子会員、堀武彦会員が選任された。

5. 議 事
提出された議案「2019～2020 年度生涯学習サロン特別会計予算(案)について」が諮られた。武田地域奉仕委員長から提案説明があり、質疑等の発言もなく全会一致で可決された。

6. 議長解任

7. 閉 会

第 290 回 例会

1. 開 会 齊藤例会委員長
第 290 回例会開催を告げ、配布資料の確認。

2. 会 長 挨拶 飯田 会 長

皆さん今日は。急に寒くなりましたね。お元気にしてお過ごしのこと大変うれしく思います。12 月の例会をもちまして会長職を受けて半年が過ぎました。理事の皆様のおかげで理事会もワンチームで今日まで頑張ってまいりました。これからいよいよ「学習サロン」が始まります。今年度も八王子 PC 会員がワンチームとして取り組みたいと思います。全員のご協力をよろしくお願い致します。



今年は平成から令和への御代替わりし、吉野彰さんのノーベル賞受賞等のおめでたい話の反面、災害の多い年でもありました。気候の温暖化による変動が大きく影響しているのでしょうか。今スペインでは地球温暖化 COP25 の気候変動枠組み条約の閣僚級会議が開かれています。日本も他国から後ろ向きの環境施策が指摘されないことを望みます。環境活動家 16 歳のグレタさんの言葉は世界の人々の心に強く響きました。

私も長年環境問題の仕事をしてきましたが 1997 年の京都議定書、2015 年のパリ協定など「持続可能な開発」と「COP3～COP21」が大きな課題でした。環境問題は我々一人一人が「考えはグローバルに持ち、行動はローカルに」をモットーに行動することがますます重要ではないでしょうか。

令和 2 年の新しい年が穏やかな年でありますようにご祈念し、1 月の例会でお会いしましょう。風邪など引きませぬようにご自愛ください。

3. ハッピーコイン披露

田中副会長からハッピーコイン 15 件の披露があった。(5～6 ページに掲載)

4. バースデーカード贈呈

飯田会長より、恒例の池田会員手作りのバースデーカードが 11、12 月生まれの会員に贈られました。



写真 左から深谷、杉山、東山、飯田、
宮城、齊藤の各会員。(敬称略)

5. 米寿会員のお祝い

今年度から米寿・卒寿を迎える長寿会員に祝意を示すこととなり、飯田会長から、米寿を迎えた立川会員と東山会員に記念品が贈られました。



米寿に想うこと

立川富美代

東京八王子プロバスクラブの皆様、この度は私の米寿にお心のこもったお祝いを頂戴いたしまして、まことに有難うございました。心から御礼申し上げます。

88 年の人生。苦しいことも、悲しいことも、悔しいことも、また嬉しいことも、感激したことも、楽しかったことも沢山ありました。

この長い人生を支えてくれたのはやはり健で

した。病気一つなく過ごせたことは、健康に生んで育ててくれた両親に感謝です。

後半の 25 年はプロバスクラブのメンバーとして、皆様に支えて頂き楽しく活動することが出来ました。神様には「あと少し元気に過ごさせてください」とお願いをしている私です。有難うございました。

米寿に寄せて

東山 榮

私は今年 11 月 23 日で目出度く八十八才の米寿を迎えることができました。これも偏に我が先祖、家族と関係諸兄姉のお蔭、そして信仰する神仏のご加護の賜と深く感謝しております。

その上、この機会に図らずも当会の役員会と総会で、今年から当該年に米寿と卒寿を迎えた会員には、例会で記念品を贈呈してお祝いをする事を取り決められ、その祝米寿第一号が、同い年で私より生まれが一ヶ月早い立川富美代会員で、第二号が私となり、12 月の例会で皆様から祝福される、又とない喜びを頂戴することが出来ました。大変有難うございました。

今後当会と会員諸兄姉の益々の発展とご健康を心より祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。本当に有難うございました。

6. 卓 話

「日本で生活していて困ったこと、

文化の違いで戸惑ったこと等」

ジュリアンシュミット氏

私の出身はドイツ連邦共和国です。日本に来てずいぶん経ちました。ドイツではグラフィックデザイナーとして、雑誌の編集に携わっていました。日本に来てから、ドイツ文化センターでドイツ語を教えたり、今回のようなドイツについての講演などもしています。



私の出身地はグリム童話の舞台である黒い森（シュヴァルツヴァルド）近郊のゲンゲンバッハで、カジノで有名なバーデンバーデンの近くです。

私の父はビールを飲んだことはありません。飲

むのはワインだけです。よくドイツ人はビールにソーセージというイメージを持たれていますが、出身地域によって三つに分けられます。

ドイツでは国の 3 分の 1 を占める地方ではビールが中心、同じく 3 分の 1 のライン河地方ではワインのみ。そして残る 3 分の 1 の地域では芋・麦・コーンの焼酎という具合にはっきり分かれています。私の地方では子供の頃からワインを水で薄めて飲ませています。(会場に騒めきが……)

日常生活で困ったことと言えば、自転車の乗り方です。ドイツでは自転車は車として車道を走らなくてはなりません。ところが日本では自転車は主に歩道を走りますね。最近は車道も一部走らうになりましたが、まだまだ歩道を凄く速さで走って来る自転車があり、とても危険を感じます。

私は世田谷に 18 年間住んでいましたが、八王子はこの 1 年ぐらいです。私は歩道で自転車とすれ違うときは、自転車の人と目を合わせません。そうすると、自転車の方で止まったり、避けたりしてくれるからです。

日本のお母さんは、ベビーや子供を自転車に乗せて走っていますが、ドイツでは子供を自転車には乗せることはしません。二人も乗せているお母さんもいますね。これには驚きました。とても危ないですね。

八王子に住んでいて、特に困ったこともありませんが、トイレの事でちょっと困っています。私がデパートの手洗いで鏡の前に立っていると、次に入ってきた人が立ち止まって、一度トイレから出て、男女の表示を確認して、改めて入って来ます。これは何度もある経験です。私が外国人のせいなのか、あるいは私が男に見えるのか。原因は判りませんが何度もある体験なので戸惑っています。私男に見えますか？(笑い)。

日本では一日 3 回の食事ですが、ドイツでは昼夜の 2 回。昼は母親の作る温かい食事。夜はパン、ソーセージ、チーズ、ババリアなどの冷たいものばかり。ドイツの夏は夜 11 時頃まで明るいのですが子供は夜の外出はしません。日本と違って子供を夜外で見かけることはありません。大人は 11 時頃までは散歩など外出することは多くあります。

冬の季節は午後の 3 時から 4 時頃には暗くなっ

てきますので、会社は 4 時半ごろで終り、商店は 6 時頃には閉店します。子供は 6 時ごろには寝かせてしまいます。小学生が 6 時、中学生が 7 時、18 歳では 8 時頃と年齢によって就寝時間が違います。

日本の高校生がお店のアルバイトで、お釣りを両手で渡しています。こういうマナーはドイツにはありません。また、外で大きな声で騒いでいる高校生も見かけます。日本には 2 種類の高校生がいるような感じがします。

ドイツには幼稚園はありません。6 歳までは屋外で遊ばせ、小学校で初めて A B C を学びます。日本の子供はテレビのインタビューでマイクを向けられると、決まって「楽しかったです」と答えていますが、自分の意見はあまり言わないで、何かロボットが答えているように聞こえますね。

日本で生活していて、大きな問題となるような困ったことはありません。日常の生活の中で馴染んでいけるし、お互いの違いを分かり合って楽しくやっています。もう国へは帰りたくないですね。帰国したら、退屈してきっと 3 週間で死んでしまうだろうと思います。毎日毎日が新しい経験で、日本での生活を楽しくやっています。(質問に答えて教育制度の発言有り。省略。)

7. 幹 事 報 告

一瀬幹事

先月の野外研修会の参加者が 50% を切っていて、参加されていない会員も多いので幹事報告のうち大事なポイントだけ重複しますが報告させていただきます。3 点ございます。

1 点目は先ほどお二人に米寿のお祝いをお渡しした件であります。大変喜ばしいことであり、今後米寿・卒寿を迎える長寿会員が輩出する状況にありまして、当クラブとしましてそれへの対応をする必要があるという事態になっております。

会則では慶事は理事会決議事項となっておりますので、先般の理事会において米寿会員に 5,000 円相当のギフト券、卒寿会員に 3,000 円相当のギフト券を進呈し祝意を示すということにいたしました。ハッピーコイン勘定を財源とし、本年度以降適用することといたします。

2 点目は全日本プロバスに関する件であります。全日本プロバス協議会から運営資金に充てるため

賛助金(一口1万円)の要請がまいておりましたが、前期理事会に引き続いて当期も当クラブはペンディングの対応をとっておりました。

2022年の総会を八王子で行うことと決定したこと及び最近の全日本の活動が前向きにアクティブになってきたこと等に鑑み、当クラブとして1万円(予算手当て済み)を、さらに会長を含め幹部5名でとりあえず5万円という対応を取りました。

その他有志の方に呼びかけておりましたが1名の会員に賛同いただきました。

3点目は野外研修会の今後のあり方の再検討であります。移動例会という位置づけですが参加者が会員数の半分を切った状況では、実施の意味があるのかどうか問題意識を持っております。

この問題は研修委員会でもたたき台を出していただき、理事会で議論の上結論を出したいと考えています。以上が先月分の報告です。

今月分の報告は4点ございます。

(1) 1月9日の当クラブの新年会に日野プロバスから8名、多摩プロバスから3名の方がお見えになります。ありがたいことですので皆さんで歓迎していただきたいと思います。

(2) 先月のいちよう祭りには当クラブから通行手形の販売、両日の受付など協力体制を取りました。これに対して、いちよう祭り実行委員会から感謝の礼状をいただいております。

(3) 八王子市市民活動支援センターに新たに登録いたしました。八王子駅前の便利なところにある施設の利用やホームページでの当クラブのPRなど利用価値が高いものと期待しております。詳細はお問い合わせください。

(4) 12月3日エルシィにおいて八王子ボランティアネットワークの20周年記念講演会が開催されました。当クラブから17名の方に参加して頂きました。この団体には来年の当方の25周年記念事業に協力を頂きたいと考えておまして、300名を超える動員力には目を見張るものがありました。

8. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会

齊藤委員長

出席人員の報告、配席をランダムにして会員相互が交流できるように工夫しました。

(2) 情報委員会

河合委員長

① プロバスだより第289号をお届けしました。今月号は移動例会のため原稿が少なく6ページ建てとなりました。研修会の実施報告を中心として、宇宙の学校やいちよう祭り、同好会の囲碁大会、写真同好会の撮影会、ゴルフコンペの結果などが主な内容です。投稿は田中副会長の一件でした。

② 11月のホームページへのアクセス回数は223回でした。

③ 例会において発言された役員の方々は、発言要旨を速やかに情報委員会までお届けください。

(3) 会員委員会

寺田委員長

・八王子市民活動協議会主催の「お父さんお帰りなさいパーティー」への出店申込書を提出しました。このパーティーは各種団体の活動内容紹介や会員募集などを狙いとした博覧会のようなもので、3月14日(土)午後1時から労政会館で行われます。会員委員会等3名(参加費1人1,000円です)位で参加する予定です。

・現在迄残念ながら新入会員の推薦候補者が出てきておりません。皆様から候補者の推薦をぜひお願いいたします。

(4) 研修委員会

山口委員長

① 本日の卓話はファーストトライアルと言うことでしたが在日の外国人の方をお願いしました。理解しにくい点があったかも知れませんが、今後ともプロバス会員だけでなく間口を広げた卓話の検討も併せ行っていきたいと思います。

② 1月の卓話は土屋会員を予定しています。

③ 先月の野外研修は天候に恵まれ楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

有り難うございました。

(5) 地域奉仕委員会

武田委員長

本日の臨時総会において、第24回生涯学習サロンの予算案につきまして、ご承認ありがとうございました。地域奉仕委員共ども皆様のご協力で、クラブ一丸でサロンの実施に当たりたいと思います。

皆様のお友達やお知り合いにサロン参加のお誘いをぜひお願いしたいと思います。人が集まってるサロンです。宜しく願いいたします。

(6) 交流担当

田中担当理事

・引き続き毎月当クラブの会報「プロバスだより」は

全日本プロバス協議会を始め、15のクラブに送付中。
・近隣クラブとの交流では、12月4日の多摩プロバスクラブの忘年会に、会長、幹事と私の3人で出席。日野プロバスクラブには1月16日の新年会に出席予定。

1月9日の当クラブ新年会には、日野、多摩の両クラブから多数来客予定。

・全日本プロバス協議会と会報「ひろば」の新年号発行に向けて情報交換中。

(7) 宇宙の学校 下山PJリーダー

今年度の「宇宙の学校」スクーリングは11月17日の教育センター会場をもってすべて終了しました。今年の特徴は何といても、八王子学園のご協力で募集定員を拡大し、抽選なしで実施できたことです。延べ約1,000組(996組)の参加者を受け入れ、後半参加者比率がやや下がりましたが、トータルでは853組(85%)の参加を得ました。

この人数を送りだしたことは、大変有意義であると確信しています。詳しい報告は別途行うとして、以上の総合結果のみをもって報告とします。

9. 同好会報告(白板に掲示)

古典芸能鑑賞会 池田ときえ
事前予約しますので、申し込みはお早めに。

10. プロバス賛歌斉唱

11. 閉会

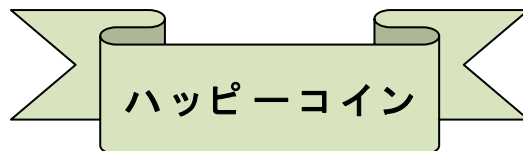
田中副会長

・学習サロン予算承認の件など予定通り進められ感謝。

・今期も半分が過ぎました。新しい試みも取り入れられ、順調に進んでおりますが、会員の高齢化と会員数の減少傾向が心配です。

・大きな台風被害等、悲惨な爪痕が未だ消えないままに、今年も終わろうとしています。ラグビーフーバーや新天皇の即位に絡む一連の古代絵巻を見るような儀式もあり、忘れ難い2019年であったと思います。

どうぞ足元にお気を付けになって、来年も元気で集まりましょう。



◆今年も、何となく、一年生きてきました。来年はもう少し生産的な一年にしたいと思っています。とにかく生きていることに感謝。 永井 昌平

◆クリスマスカードを兼ねた海外向けグリーティングカードは12月2日に発送済み。そして今朝は国内向けカードをすべて投函しました。これで私の年末年始の挨拶状は終わりです。これですっきり、“ハッピー!”。 山野 稔

◆立川会員、東山会員の米寿のお祝いを心よりお慶び申し上げます。これからますますのご活躍を期待し、プロバスライフをより一層エンジョイされますことを御祈念申し上げます 飯田富美子

◆プロバスバースデーカード10枚目 84才 VIVA-LA-VIDA 生きてるっていいな!! 五木ひろしを歌っています。 杉山 友一

◆先月移動例会で帽子が海のもくずとなりましたが約束通り池田さんよりめぐんでもらいました。親分ありがとう。 野口 浩平

◆有泉副幹事3クール目の治療が終り、昨日4クール目に入ったところです。体調も良い方向に向いているというお話でした。皆さんによりしくお伝え下さいとのこと。 一瀬 明

◆12月は、山は美しく雪化粧、里は霜が降り冬の到来を告げる。年賀状、クリスマスの準備など忙しくも楽しい季節。HAPPY — 荻島 靖久

◆はじめて会場を引受け実施した「宇宙の学校」、皆様のご支援、ご援助のもと4回の教室を無事終了することができました。応援をして下さったプロバス会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

“中学生ができるのか”とご心配をおかけしましたが、生徒もがんばってくれました。そして生徒たちも伝える難しさ、人とのかわりの大切さを学びました。八王子学園の中学生・高校生のためにも大変よかったです。

来年度もよろしくお願いいたします。 塚本 吉紀

◆八王子学園八王子高等学校吹奏楽部がマーチングバンドの全国大会に東京都からただ一校の出場校に選ばれ出場しました。11月24日(土)に大阪

城ホールにて全国大会が開かれ、みごと金賞に選ばれました。応援をありがとうございました。

塚本 吉紀

◆70年代半ば、タイのチェンマイ在勤中、60年前に日本から連れてこられたという人の自分史的な話を小冊子にしてあげた。このことを調べにタイの女性研究者がわが家に来た。 橋本 鋼二

◆秋の一泊囲碁大会で優勝しました。橋本 鋼二

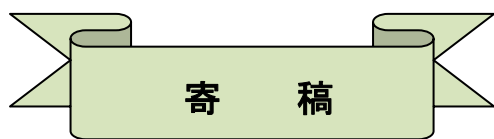
◆第40回いちょう祭り 11/16～17の2日間好天に恵まれ盛大に開催され大きな事故も無く成功裡に終了出来ました。これも一重に皆々様の御支援と御協力の賜と感謝申し上げます。またD会場本部にてお手伝い頂きましたP C会員の皆々様有り難う御座居ました。2日間の来場者数は 11/16 192,000人、11/17 305,000人 合計 497,000人でした。つつしんでご報告申し上げます。

岡本 宝蔵

◆2019年令和元年が終わります。振り返れば、今年はゴルフでの悔いはいくつもありませんでしたが、お陰さまでつつがなく過ごせたようです。来年も宜しくお願い致します。 持田 律三

◆創価大学陸上駅伝部が3年振り3度目の箱根駅伝に出場します。シード権獲得を目指して走ります。応援よろしく願います。 佐々木秀勝

◆年に1回の健診を受けました。結果を聞いた日の帰り道は、本日のように快晴でした。田中 信昭



プロバスと歩んで15年 東山 榮

私は平成17年に当八王子プロバスクラブに入会させて頂きました。伝手としては、大学の先輩の開戸一郎さん(旧せきどでんき副社長)のご紹介で、「おい、しもた屋のいい会があるけど来ないか。」と誘われ、「はい、はい。」と取りあえず返事をしましたが、会員皆さんの経歴を伺いまして、いや、これは現役時代素晴らしい高地位の方々の集まりとわかり、一瞬身の引き締まる感じがいたしました。

ところが、その年の4月1日に入会の予定でしたが、その前に「おい、お前ゴルフができるか。」と問われ、「はい、少しは。」と答えましたら、

「じゃあ3月28日にGMGでやるんだが、人数が足りないので出してくれ。」と云われたので、「いや、私はまだ入会しておりませんが。」と云って断ろうとしたら、「いや、構わないから出してくれ。」と云うことになり、意外とラフな面もある会だと、少し安心もしました。

そしてゴルフの結果は2位に入賞しました。

「お前やるじゃあないか。」と云われて嬉しかった記憶がありました。

入会の年が丁度10周年記念で、華やかに記念行事を行い、その後15周年、20周年の節目節目で各周年記念史に収録された如く、会員諸兄姉のご努力により素晴らしいイベントが実行され、現在に至っております。

また、来年は創立25周年記念の年に当たり、杉山委員長を中心に、関係会員が実行計画を進めておられますが、委員長の言われるプロバスクラブのあるべき姿「親睦」・「研鑽」・「地域奉仕」を外に向かって示す絶好の機会でありますので、全会員が総力を挙げて頑張りたいと思います。

なお、私より一歳年上の小林貞男会員は来年卒寿を迎えるということですが、小林さんは当クラブの最年長者で誠におめでたいこととございます。

それにしても残念なことに、今年4月にご逝去されました渋谷文雄さんがご存命なら、昭和4年生まれと伺っておりましたので、丁度卒寿のお祝い第一号となるところでした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

話は変わりますが、当八王子プロバスクラブも平均年齢が傘寿になんなんとしており、我が国の平均寿命も年々伸び、長寿の時代となっております。私を含めて会員の皆様も健康に充分留意され、是非とも米寿、卒寿できれば白寿までも届きますように、頑張っていきたいと思ひます。

私は現在情報委員会に所属し、プロバスだよりの編集作業とそれに載せる寄稿募集を担当し、皆様をお願いしているところであります。今回の米寿のお祝いを頂いて、このチャンスは二度と来ないので、記念に一筆書くようにと情報委員会諸兄に半ば強要されまして、日頃とは逆に原稿をしたための立場になりました。誠に拙いものではありますが思いの一端をご披露させて頂きました。

タイから女性研究者の来訪 橋本 鋼二

国際交流基金バンコク日本文化センターから電話でタイ人の研究者が波多野秀さんの「タイ国在住六十年 思い出すまに」を探している、私があるその冊子を持っていたら、コピーを取りたいということであった。



この小冊子を探していたのは、タイのチェンマイに住むアーティストで研究者の女性、スッティラット・スパパリンヤさんで国際交流基金アジアセンターのフェローシップを得てこの秋に来日した。コピーをお送りすると、さらに作っただきさつなどを知りたいと伝手を頼り、わが家に訪ねてきた。彼女はチェンマイ大学卒業後、ライブチッヒでメディアアートを学んだという経歴、日本では移民のコミュニティや、各国との文化政策を通じた交流を調べているとのことだった。

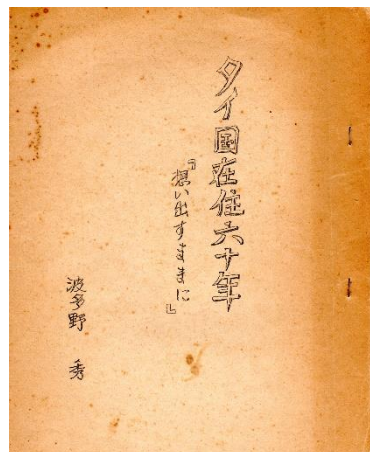
思い返すと、1970年代半ばタイ北部のチェンマイに在勤中の話が発端である。チェンマイは四方を堀に囲まれ城壁の残る旧市街には古いパゴダ（仏塔）が点在し、近くの山には王室の離宮や著名な寺院がある古都、当時の人口は十万足らずの地方都市で日本人は私たちを含めても三十人足らずだった。

旧市街の一軒屋に住み始めてから間もなく波多野秀さん(写真)が訪ねてきた。彼は1914年、14歳の時にタイに連れてこられたという在外邦人の元写真師であった。お付き合いが進み、戦前、戦時、戦後をタイで生き抜いた貴重な体験談を聞き、文にしてみないかと勧めた。記録として残しておけば後に生きると考え、それが引き金となってさらに書き進めて欲しいと願って波多野さんの原稿をもとに小冊子を作ることにした。

彼の原稿を当時ボランティアとして病院で奉仕



活動をしていた穂積夏子さんがガリ版切りし、諸雑費は私が持ってまとめたのが奥付もない粗末な謄写版刷りの小冊子「タイ国在住六十年 思い出すまに」(写真)であった。これが朝日新聞松本逸也記者の書いた『シャムの日本人写真師』(めこん、1992)に再三引用され、参考書籍として記載されている。粗末な小冊子であっても記録しておけば生きることがあるのを実感した。



スッティラットさんはチェンマイ市の地図を持参していたので、彼女が生まれる前のチェンマイの様子などを交えながら、四十数年前の波多野さんのお付き合いについて夫婦で回想することができた。彼女の手で日タイ交流の一こまとなる波多野秀さんの姿が甦るのを願っている。

健康、福祉、街づくり

塩澤 迪夫

高校まで故郷の茨城で過ごし、都内の大学を卒業と同時に八王子市に住んでおります。母親が高校生の時に病気で他界し、その時より健康に関心を持ち始め、社会人となり福祉や子供達の教育貢献しようと、レクリエーションの世界に入り「福祉と健康づくり」に取り組んで38年目を迎えています。



自分に体力がある限り、今日では地域の役員を受け住みやすい街づくりにも貢献しようと、未来を作る子供たちの世界を応援し八王子市と近郊で複数の小学校から要請を受けて足を運び、地域に“あそびの学校”を作り土曜日を過ごしています。小学校では味わえない創作活動やゲーム、ニュースポーツ、野外活動等があり、本年から中学校の課外体験教室で行い有意義な日を過ごしています。

健康づくりにおいては、高齢者で体力が衰えている方や障害をもつ非健常者には、近隣の市町村の施設にも出向き指導、体験事業を行っています。

この様な活動が伝わり、テレビに二回出演し、全国に紹介されました。ニュースポーツである「スカットボール」を町会で開催し、全国に放映され、最近、他府県、近隣等に子供の施設や市町村の非健常者の施設から講師の依頼が届いており、レクリエーション月刊誌にも紹介されています。

近年は、地域町内会の役員も依頼され、恒例となっている夏祭り、運動会等のイベントにも自ら新しく開発した街づくりとなる種目を演出しています。こうした幅広い日々の活動が自分の健康づくりとなり、地域づくりに貢献し、活動が社会のためになるものと、多忙ながら過ごしています。

過去には自分だけが楽しければ良いと考えた時期もありましたが、本当の楽しさは、教える方も教わる方も共感でき、やがて覚えた人たちが、他に伝えたりすることが大切となります。

多忙な日々を過ごししながら、常に新しい技を生み、健康な体力と豊富な知識を習得しレクリエーションの世界の一員として、近隣市町村にも出向き、地域の老人会、婦人会、児童館、町会等の発展に尽力しております。

全日本プロバス「ひろば第3号」に

八王子を紹介 飯田会長

東京八王子プロバスクラブは 1995 年に創立され、2020 年の今年、25 周年の節目の年を迎えます。本年度のテーマ「一人一人の笑顔が素敵に輝いて、素敵なクラブライフを！」の下で活動しています。

当クラブの活動の特徴としては、創立以来続いている社会人を対象とした「生涯学習サロン」の開催、10 年続いている小学生の親子を対象とした「宇宙の学校」の支援活動です。さらに、地域の祭りや文化活動にも積極的に取り組んでいます。平均年齢 82 歳の男性合唱団（シニアダンディーズ）も地域から大きな評価を得ています。

クラブ会員は 61 名（内女性会員は 13 名）が在籍し、10 を超える同好会活動があり、研修や趣味を楽しむ場として、お互いを高め合っています。

当クラブは「生きがいを培う」クラブであり、気張らず、奢らず、そしてチョッピリお洒落な集いとして「誰からも愛されるクラブ」であり続けたいと願っています。

俳句同好会だより

私の一句〈十二月の句会から〉

河合和郎

俳句同好会も発足以来 10 年目を迎える。メンバーの皆さんは俳句が人生の伴侶になりつつある。

甲州路いちょう落葉のひかり舞ふ 野口 浩平

甲州街道の銀杏並木の黄落は壮観。句に詠まれるとその美しさを再認識。いちょう祭りも大盛況。

冬の蠅舐めてかかりて捕り逃す 東山 榮

「やれ打つな蠅が手をすり足をする」とは一茶。この句では蠅の方が一枚上手。作者は米寿の粋人。

老夫婦肩寄せ合ふて冬の坂 矢島 一雄

相老いの老夫婦が手を取り合って坂道(人生)を歩む。心和ませる光景を一句に。益々お元気で。

よきこともいくつかありて年暮るる 池田ときえ

いろいろ苦労もあったけど、何とか一年が……。今年こそいい年であって欲しいと願いつつ。

冬日背に句碑拾ひつつ男坂 田中 信昭

高尾山の参道には沢山の句碑が寄進されている。「句碑拾ひつつ」とは洒落た措辞。今年も健吟を。

山茶花の散りしく路地を行くふたり 下山 邦夫

何かがありそうな雰囲気的一句。日常のさり気ない光景に視点を合わせての句作がいい。

ぱつりきて家路を急ぐ落葉坂 飯田富美子

時雨がぱらぱらと。落葉を忙しく踏んで家路を急ぎ作者が浮かぶ。坂の兼題句として情緒あり。

朝まだき迫る稜線冴えわたる 馬場 征彦

冷え込んで凜とした朝。山の稜線が眼前に迫ってくるようだ。早朝の一瞬間の景を一句に納めた。

我が家にも吾輩のそり漱石忌 河合 和郎

夏目漱石の忌日は 12 月 9 日。「吾輩は猫である」を下敷きにした一句。一つのパロディーとして。

編集後記：今回のプロバスだよりの編集は、卓話をどのように纏めるかが課題と覚悟していたが、河合情報委員長からの“纏めメモ”で何の苦労もなく編集作業を終えることができました。

河合委員長に敬服・感謝！ 佐々木秀勝